

平成30年度 瑞穂野中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

【基本目標】人間尊重の精神を基盤に、豊かな心と個性をもち、自主性・創造性を発揮して、たくましく生きる人間を育成する。

【具体的な生徒像】

- ・心身ともに健康で、気力あふれる生徒
- ・自ら学び、創造性に富む生徒
- ・勤労を尊び、責任感のある生徒
- ・思いやりがあり、心豊かな生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

生徒が互いの個性を認めつつ、学習や行事、部活動などに目的をもって取り組む中で、自分のもつ良さに気づき、将来にわたって自分を高めようとする生徒を育成する。

そのために、教職員は自己に与えられた使命を自覚し、自己研鑽に励み、ひいては保護者や地域から信頼される学校を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 生徒が安心して自分の成長と向き合うことができる公正で温かな学校づくりに努める。
- (2) 教職員は自己の使命と責任を自覚するとともに、常に自己研鑽に励み、専門職としての力量を高める。
- (3) 多様な生徒の存在を認識しつつ、生徒との人間的な触れ合いを深め、人権感覚を磨きながら生徒理解や指導方針に基づく指導を推進する。
- (4) 学校課題を明確化し、課題解決に向けて組織的に取り組む。
- (5) 生徒の社会的自立を促すために、創意ある教育課程の編成に努める。（キャリア教育の視点）
- (6) 9年間を通して、生きる力をはぐくむ小中一貫教育の最終段階として、学びを広げ深められる環境を整える。
- (7) 質の高い教育を目指して、学校業務の明確化、効率化や時間を意識した働き方を推進する。（教職員の働き方に関する視点）

【瑞穂野地域学校園教育ビジョン】 9年間の連続した学びの中で「生きる力」を育てる小中一貫教育

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

- ・全職員が取り組むべき学校の課題を共通認識し、課題解決のために組織的に対処する。
- ・業務改善を進め、生徒と向き合う時間の確保を目指す。
- ・学力を高めるためのカリキュラム・マネジメントを行っていく。

【学習指導】

- 論理的に考え、思考を深めよう学習活動の推進
- 自主学習（家庭学習）習慣の定着を目指した指導の実践
- つまずきに気づき、克服させる振り返り活動を取り入れた学習指導の実践
- ・学校課題に即した研究授業の実践（含 ミニ研究授業）
- ・各種調査等の分析をもとにした課題を組織的に解決するPDCAサイクルの確立

【心豊かな生徒の育成と道徳的实践力の向上】

- ・道徳の教科化に向けた指導法の研究
- 学校園の重点目標に沿った小中9年間を見通した系統的で重点的な指導
- ・指導資料の改善と指導資料の累積

【児童生徒指導】

- ・いじめがおきない、不登校を出さない指導の展開、保護者への学校の取組の周知
- ・校内対策会議等を活かした、組織的で迅速かつ継続的な対応
- ・SC、関係諸機関との連携
- ・規範意識の育成と基本的な生活習慣の確立
- ・全ての生徒が自己肯定感の持てる学校づくりの推進

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・定期健康診断・元気っ子健康体力チェック等の結果の有効活用

- ・健康教育・食育を通した望ましい生活習慣の確立
- ・体力向上を目指した部活動の推進
- ・交通安全指導の徹底

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ◎生徒の肯定的回答 90%以上	・生徒にとって居がいのある学校づくりを目指し、より魅力的な教育活動の推進に努める。 ・朝会等において各種委員会の活動を発表し、自治的な・自立的な雰囲気を醸成する。 ・学級経営や教育相談を充実させ、心の通じ合う「居がい」のある活気に満ちた学校づくりを推進する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 93.1%であり、数値目標に達した。生徒が各種活動に意欲的に取り組むことができていた。 【次年度の方針】 ・学校行事や生徒会活動等において、生徒が考える場と時間を十分にとり、自主的・自立的な活動を推進することで、生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られるようにする。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 ◎保護者の肯定的回答 85%以上	・教職員の情報交換や連携を密にし、些細な問題に対しても共通理解の下、迅速かつ誠実に対応するよう心がける。 ・どの生徒にも活躍の場を設定し、生徒のよいところを認め、褒めることで自尊感情を育む教育の一層の推進を図る。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 87.4%であり、数値目標に達した。前年度より 13.9 ポイント上回った昨年度を更に上回った。 【次年度の方針】 ・生徒に関する情報交換を密にすることで、一人一人の良さを教職員が共有し、個に応じた指導を組織的に行う。
	A 3 生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 ◎教職員・生徒の肯定的回答 85%以上	・教職員が率先垂範の姿勢で行動するとともに、生徒会を中心とした取組により、意識の向上を図り、生徒の主体的な活動を促していく。 ・生徒自ら進んで考え判断し行動できる資質を身に付ける場と機会の設定に努める。 ・「学習のきまり」の指導を、教職員が共通実践するとともに、授業を工夫・改善することで、生徒が日々の授業に真剣に取り組めるようにする。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員が 96.3%、生徒が 85.4%で共に数値目標に達した。特に教職員は、昨年度より 10.6 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・生徒会を中心とした取組をより積極的に推進し、生徒自らが学校生活を見直す中で、問題点や課題を見出し、改善していける主体的な活動を支援する。 ・学習の決まりを守る受動的な学習態度から、より高い質の授業を目指す意欲的な学習態度を目指し、目指す授業の在り方について教職員と生徒が共有できるようにする。
	A 4 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ◎生徒・保護者の肯定的回答 80%以上	・生徒にとってより分かる授業を目指し、教員の授業向上の取組を充実させる。一人一授業をさらに推進し、教員相互が授業を見合う取組を一層充実させる。 ・いつでも質問できる雰囲気づくりを努め、個に応じた学習指導を行う。 ・家庭学習やドリル学習などの指導を通じて、基礎学力を定着させる。	A	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 91.0%であり数値目標に達した。保護者は前年度より 10.4 ポイント上回った昨年度を更に上回る 76.1%であったが、数値目標には達しなかった。 【次年度の方針】 ・少人数指導や IT の指導の工夫により、基礎基本の定着を図ることや、授業のねらいの提示や振り返りにより、分かる授業を目指した授業改善に取り組む。 ・個々の学力の状況に応じた学習方法や課題について、適切な支援を行うことができるように、授業以外の場でも質問等ができる環境づくりに努める。

A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ◎生徒の肯定的回答 95%以上	・瑞穂野中学校いじめ防止基本方針をもとに、全校体制でいじめ撲滅、防止の指導を徹底する。 ・いじめ〇強調月間や人権週間の取組をさらに充実させ、学校公開に合わせて実施するなど、学校の取組を広く周知する。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 96.5%であり、数値目標に達した。保護者は昨年度を 15.5 ポイント以上上回った。 【次年度の方針】 ・いじめ〇強調月間・人権週間と、教育相談・アンケート調査・特別の教科道徳・学級活動・生徒会活動・学校行事等のユニット化を明確に打ち出し、学校の取組を広く周知する。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 ◎教職員の肯定的回答 95%以上	・目標を明確にした教育活動の推進に努めるとともに、自己評価や生徒の相互評価などを活用し、より効果的な運営を行う。 ・事後アンケートを実施し、成果と課題を明確にし、次年度に生かせるようにする。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 96.3%であり、数値目標に達した。事後アンケートをもとに、来年度の教育課程を編成できた。 【次年度の方針】 ・新しい校務システムの効果的活用により、日課・授業・学校行事などの共通理解と実践を行い、反省をフィードバックできるシステムを確立する。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 ◎保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	・各種だより、学校ホームページ、メール配信システムなどを活用し、学校情報を積極的に発信する。 ・オープンスクールや学校行事等を通し、保護者や地域住民に積極的に学校生活の様子を公開する。	【達成状況】 ・肯定的回答は、保護者が 91.5%、地域住民が 100%であり、共に数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・各種たよりの発行やホームページの更新、保護者会での説明内容を工夫し、積極的に学校情報を発信する。 ・地域住民や保護者が気軽に学校に足を運べる学校公開について工夫する。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】 ◎保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	・魅力ある学校づくり協議会を活性化させ、学校をより開かれた場所にするとともに、地域の教育力を取り込んでいく。 ・地域学校園での取組を一層充実させていくとともに、魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協力のもと、学校支援ボランティアの充実を図る。	【達成状況】 ・肯定的回答は、保護者が 91.5%、地域住民が 94.1%であり、共に数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・地域・企業との連携により、出前講座や学校支援ボランティアを積極的に受け入れ、充実した教育活動の推進に努める。 ・各種の学校教育支援を利用し、特色ある学校づくりに進める。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 ◎生徒の肯定的回答 90%以上	・学校緑化に力を入れ、生徒が主体的に進める潤いのある環境づくりに努める。 ・生徒の学習につながる廊下や教室の掲示を行い、よりよい学習環境を創出する。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 91.7%であり、数値目標に達した。芝桜やウッドチップによる学校緑化や掲示板の増設により、潤いのある環境を創出できた。 【次年度の方針】 ・引き続き学校緑化に力を入れ、生徒自らが潤いのある環境を創造していける花壇や庭園造りを進める。 ・掲示板等を効果的活用し、学校生活の様子が教職員・生徒・来校者に分かりやすくする。
A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ◎保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	○小中 9 か年間を通した基礎的な言語能力の育成や心の教育を継続的・系統的に行う。 ○小中 9 か年間を通した基礎的な言語能力の育成や心の教育を継続的・系統的に行う。	【達成状況】 ・肯定的回答は、保護者が 93.6%、地域住民が 100%であり、共に数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・小中一貫教育での中学校の取組や、地域学校園全体での取組を生徒にも分かりやすく周知し、生徒一人一人が取組の担い手となるようにする。 ・地域学校園の課題であるが学力向上への取組を、目に見える形で示していく。

教育活動の状況		A11 多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。 【数値指標】 ◎教職員の肯定的回 80%以上	・教職員の働き方について、常に振り返る機会を設け、教職員の総合力を高めていけるようにする。 ・教員の業務を、本来的な業務になるべく集中できるように見直し、その中に、専門スタッフ、地域人材等が連携・分担する業務を位置づける。	A 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 63.0%であり、数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・多様な職種の職員が、学校業務の大きな担い手となっていることを、具体的に実感できるよう業務内容を明確にする。 ・全教職員で業務を遂行するため、分掌にとられないマルチタスクを心がける。
		A12 教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。 【数値指標】 ◎教職員の肯定的回 90%以上	・職種の違いを超えて、互いによりよい学校づくりや生徒の良さについて情報交換できる場と環境づくりを行う。 ・体育祭や文化祭等の学校行事において、教職員が一体感をもてる取組を積極的に行う。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 92.6%であり、数値目標に達した。生徒のより良い成長を願うという想いを共有し、実践できていた。 【次年度の方針】 ・互いの良さを認め合うことで、学校の中で果たしている役割を意識させ、互いに尊敬し合える雰囲気づくりを心がける。
	生 活	A13 生徒は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 ◎生徒・保護者の肯定的回答 85%以上	○生徒会あいさつ運動をさらに発展させ、部活単位のあいさつ運動を推進する。 ○校内や地域学校園のあいさつ運動を充実させるため、地域協議会やPTAとの連携をより進めたあいさつ運動の推進し、生徒があいさつしやすい環境をつくるとともに、あいさつの習慣化を図る。	A 【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒が 96.2%で数値目標に達したが、保護者は 77.4%で昨年度を 5.9 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・今年度より実施している部活動ごとのあいさつ運動やふくまち委員会との共催でのあいさつ運動を深化させ、地域や保護者の方へのあいさつの習慣化を図る。
		A14 生徒は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 ◎生徒・保護者の肯定的回答 85%以上	・生徒間の日常的な言動にも注意を向け、時と場に応じた言葉遣いや敬語の指導を心掛けるとともに、家庭や社会生活での言葉遣いについても、意識して生活できるよう指導していく。 ・人権感覚を高める指導を継続して行い、朝会や集会、学級活動等で生徒への啓発を行う。	A 【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒が 91.0%で数値目標に達したが、保護者は 83.9%で昨年度を下回り数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・授業や休み時間等、学校生活の中での言葉遣いに気を配り、適切な言葉遣いについての継続的指導を、全校体制で取り組む。 ・各種たよりやホームページの中に、言葉遣いについての話題を取り上げることで、家庭と連携した指導ができるようにする。
		B1 学校はいじめのない明るく楽しい雰囲気づくり、人間関係づくりに努めている。 【数値指標】 ◎生徒・保護者の肯定的回答 85%以上	・「学校いじめ防止基本方針」の改定を受け、いじめ対策を更に強化し、学校のホームページ、学校だより、保護者会等で積極的に周知・説明していく。 ・生徒会が中心となって「いじめ撲滅キャンペーン」を展開する。	A 【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒が 93.4%で数値目標に達したが、保護者は 82.0%で昨年度を上回ったものの数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・生徒会を中心とした「いじめ撲滅キャンペーン」の更なる強化と、学校全体での取組との連携を強め、取組の周知・説明を丁寧に行うことを継続する。 ・未然防止、早期発見・早期対応ができるように、教育相談の技能（カウンセリング）を向上させていく。

健康・体力	A15 生徒は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 ◎生徒・保護者の肯定的回答 85%以上	・教科体育において、正しい運動の技能を身に付けさせるとともに、運動の楽しさや喜びを味わわせる。 ・学校行事や部活動で積極的に運動にかかわらせ、生涯にわたり継続してスポーツに親しむ素地づくりに努める。	B	【【達成状況】】 ・肯定的回答は、生徒が昨年度を 5.8 ポイント下回る 79.5%、保護者が 79.8%であり、共に数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・昼休みを利用した学級の共遊の時間等を活用し運動に親しむことで、運動の楽しさや喜びを味わわせる。 ・教科体育の中で、技能を身に付けさせるだけでなく、運動することの意味や効果等についても理解できるようにする。
	A16 生徒は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 ◎教職員・生徒の肯定的回答 85%以上	・食育だより、保健や家庭科の学習を通じた栄養指導、生活習慣の指導により、自分の食生活を見直し改善していける生徒を育てる。 ・地域学校園で取り組む「みずほの献立」「学校園食育だより」「一口メモ」「お弁当の日」等を今後も継続し、食への関心を高めていく。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員が昨年度を 7.0 ポイント上回る 96.3%で数値目標に達したが、生徒は 84.4%で数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・生徒会の各専門委員会活動との関連性を活かし、給食委員会、図書委員会・保健委員会・体育委員会等が協力した給食指導を行う。
学習等	A17 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ◎教職員・生徒の肯定的回答 85%以上	○生徒が意欲的に授業に取り組める授業改善を行い、学び合いによりグループ内での発表力を高め、学級全体での発表力向上につなげる。 ○校内研修会や自主的な研修を通じて、つまずきに気づき、克服させる振り返り活動を研究し、よりよい授業のあり方について共通実践を図る。	A	【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員が昨年度を 17.7 ポイント上回る 96.3%、生徒が 6.3 ポイント上回る 92.0%で、共に数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・引き続き授業改善への取組を進め、ねらいの提示・学び合い・振り返りという授業の流れを生徒にも強く意識させ、毎時間意欲的に授業に取り組む素地を作る。
	A18 生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ◎教職員・生徒の肯定的回答 85%以上	・落ち着いて学習に取り組めるよう、黒板周囲の掲示物の整理など特別支援教育的な配慮をした教育環境の整備に努める。 ・学習の約束を守り、落ち着いて学習に取り組ませるとともに、学習のねらいの提示と振り返りを毎時間行い、学習指導の充実を図る。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員が 96.3%で数値目標に達したが、生徒は 83.3%で数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・教室の前面、側面、背面それぞれの掲示物を、目的にそった形で整理し、学習に集中できる環境整備に努める。 ・特別教室等には、学習内容に応じた掲示を行ったり、図書室や廊下等にも学習に関連づけた掲示を行ったりする。
	A19 生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】 ◎生徒・地域住民の肯定的回答 85%以上	・地域の方々及びボランティアの方々とともに活動することを通して、生徒の意識を地域や社会に向けさせた広い視野を育てる。 ・生徒会が主体となった活動の内容を精選し、より焦点化が図れるよう活動の工夫を行う。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員が 88.9%で数値目標に達したが、生徒は 82.2%で数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・生徒が参加している各種ボランティア活動を、校内外に広く周知することで、参加しなかった生徒、保護者・地域住民からも認められる機会を作る。
	B2 生徒は自主学習ノートに前向きに取り組んでいる。 【数値指標】 ◎教職員・生徒の肯定的回答 90%以上	○素晴らしい取組をしている自主学習ノートを積極的に紹介し、よりよい家庭学習の進め方や方法を広く周知する。 ○生徒会の学芸委員会を通して、優秀な取組を紹介・表彰することで生徒の意欲を高める。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員が 88.0%、生徒が 89.6%であり、共に数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・自主学習への取組は定着していることから、より質の高い家庭学習にしていけるために、具体的な素晴らしい取組を数多く紹介する場を設ける。

	B3 生徒は朝の読書にまじめに取り組んでいる。 【数値指標】 ◎教職員・生徒の肯定的回答 95%以上	・生徒が主体的に読書に取り組める環境整備に努めるとともに、読書活動の支援のあり方を検討する。 ・学校図書館の読書活動支援における、読書センターとしての機能を充実させる。	B 【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員が 100%、生徒が 96.9%であり、共に数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・学習内容や学校行事に合わせたブックトークや図書だより、図書紹介コーナーを更に充実させていく。 ・各教科学習と図書館教育と連携を意識した取組を今後も継続・充実させていくことで、幅広い読書ができるようにする。
本校の特色・課題等	B4 教職員は、地域のよさを自覚し、郷土への親近感ももてる生徒を育成している。 →地域の行事への生徒の参加等を支援し、地域の方々とのかかわりを通して、そのよさを自覚し、郷土を愛する心情を育てている。 【数値指標】 ◎保護者の肯定的回答 85%以上	・地域との関わりの中で、地域行事への積極的な参加を促し、地域貢献できる生徒の育成に努める。年間を通じたボランティア募集の予定の提示をもとに、計画的に参加できるようにする。 ・PTAや地域行事への生徒の積極的な参加を促し、瑞穂野のよさを再認識させる。	A 【達成状況】 ・肯定的回答は、81.0%で数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・地域行事への生徒の参加を促すとともに、その活動の様子を積極的に周知することで、教職員・生徒に地域のよさに目を向けさせ機会をつくりだす。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・昨年度と比較して肯定的回答割合が、教職員、保護者、生徒、地域住民ともに、7割以上の項目で増えている。特に昨年度 80%未満だった「A4－分かりやすい授業」「A5－いじめ対策」「A7－小通一貫」「A16－栄養のバランス」「A17－積極的な学習」の項目が、今年度全て上回ったことから、一定の成果が出たと思われる。

・保護者評価が昨年度に引き続き改善した。特に、「A5－いじめ対策」は、昨年度に引き続き 10 ポイント以上改善した。いじめの強調月間や人権週間の取組を充実させ、学校公開に合わせて実施するなど、学校の取組を広く周知してきたことで、学校のいじめ対策が好意的に受け入れられたと言える。

・今年度より評価項目（教職員評価のみ）に加わった、「A11－多様な専門性を有する学校スタッフの活用による業務の縮減」「A12－多様な専門性を有する学校スタッフとのコミュニケーション」については、業務の縮減が 63.0%であったのに対して、コミュニケーションが 92.6%と高評価であった。コミュニケーションが良好なことから、今後業務の縮減につながっていくものと考えられる。

○「A10－小中一貫教育」については、教職員評価が 96.3%、保護者評価が 93.6%、地域住民評価が 100%なのに対して、生徒評価が 70.5%と、20 ポイント以上低くなっている。小中一貫教育は本来生徒のためのものであることを考えると、具体的な対策を講じていくことが必要である。

・地域住民評価は、昨年度より 5 ポイント以上下回ったのが 4 項目、10 ポイント以上下回ったのが 1 項目あったのに対して、5 ポイント以上上回ったのが 2 項目と、全体として昨年度より評価が下がっている。評価者数が増えたことにより単純な比較はできないが、要因の分析を今後慎重に行っていくことが必要である。

6 学校関係者評価

・今後生徒数が増加していくことから、自転車置き場を増設していくことが必要であろう。

・いじめ対策と関連して虐待についても学校として対応していくことが必要である。しかし、学校だけで抱え込まないで、関係機関と連絡を密にして情報を共有するとともに、協力して対応していくことが大切である。

・地域住民評価については考える必要がある。学校へ足を運ぶ機会が少ないことや、評価者数が少ないことなどを考えると、一番信頼できるのは生徒評価なのではないか。生徒評価は高いことから、地域住民評価についてはあまり気にする必要がない。

・学校評価では見えないものもある。教育は生徒のためにやるということを忘れずに取り組んでほしい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・いじめ対策について、保護者評価は2年続けて10ポイント以上改善されたが、教職員・生徒・地域住民評価に比べて大きく下回っている。これまでの取組を引き続き進めていくとともに、総合的な対策に力を入れていきたい。
- ・生徒の時と場に応じたあいさつや言葉遣いの評価が下がっていることから、学校教育活動の全ての場面において、あいさつと言葉遣いについて指導するとともに、家庭や地域と協力した取組に力を入れていきたい。
- ・「A17ー進んで学習に取り組んでいる」「A18ー落ち着いて学習に取り組んでいる」はともに評価が高いが、学力向上につながっていない現状があることから、これまで以上に授業力の向上を図るための研修に力を入れていきたい。
- ・学校の取組を周知することで評価が高まっていることから、これまで以上に広報活動に力を入れていきたい。
- ・今年度地域住民の評価者をより数多くするために、学校と関わる機会がある民生委員にも評価してもらったが、地域住民が学校へ足を運べる機会を増やすことで、学校教育の現状を理解して評価して頂けるように工夫していくことが必要である。